

!!!! 今月の SpotLIGHT

嘉手納基地で働く様々な職種の日本人従業員にスポットをあてて毎月紹介して行くコーナーです。今月はこの方です。

第18航空団第18憲兵中隊

みやぎ

宮城

ひろゆき

寛至さん



(写真全て、米空軍：アマンダ・ガーピック上等兵撮影)

Q1. あなたの職種と仕事の内容をお聞かせ下さい。

第18憲兵中隊でオペレーション・フライト・スーパー・バイザー（小隊監督官）として勤めています。同じ役職で働いている日本人が他に数名います。基地内での憲兵業務をはじめ、同中隊に働く日本人ガードのスケジュール調整、シフト配置などを管理しています。日本の警察と同様、憲兵隊は常に24時間シフトで勤務しています。日常業務の他に様々な必須訓練や業務における講習、警備に関する規定等に精通するための定期的なテスト（武器類、筆記、口頭）等があり、また自己防衛や逮捕術等の実地訓練があります。

Q2. この職場に勤めてどのくらいですか？

憲兵中隊で働いて11年になります。当初はゲートガードとして6年、次に交通巡視員として3年、それから現在の役職に就いています。



Q3. この仕事におけるやりがいはどういったところですか？

米軍基地の警備 安全に貢献できるところにやりがいを感じます。日本人のガードも米軍人の憲兵隊員と同様の仕事をしています。基地内での憲兵業務を担っているという使命感を持って仕事をしています。職業柄、取り締まる立場ですから決して楽しいことばかりではありませんが、ゲートでの立哨中、笑顔で挨拶を返されるだけでまた気持ちよく仕事に専念しようという気分にもなれます。

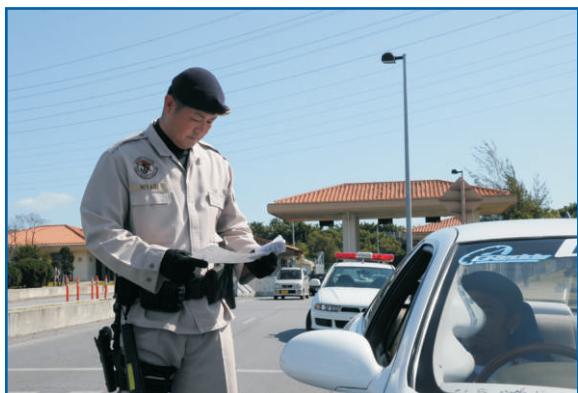
Q4. この仕事の一番の課題は何ですか？

課題というより厳しい状況に直面することは多々あります。やはりPOLICE業務なので、問題処理の際は容易ではありません。交通事故やトラブルが起こった時に感情的になる米国人や民間人の間に入り仲裁しながら問題を処理する事もあります。嘉手納基地には空軍だけでなく、陸軍、海軍、海兵隊の4軍の部隊が出入域している為、各々の軍によっても規則が異なる場合があり、それを把握した上で空軍の規則を遵守し遂行する必要があります。

Q5. アメリカ人と働く環境での一番の課題は何ですか？

私達日本人の憲兵隊は警備のみをしていると誤解されがちですが、米軍人の憲兵隊と同じ業務を任されていますので、私達が質問したり注意したりすると良くない態度で対応されたりすることもあります。でも憲兵隊の軍人はお互いに法律や規則を理解して働いているので、協力関係も強く、お互いに教えたり教えられたりと働きやすい環境にあると思います。

また、嘉手納に配属される兵士は若者が多く、通常2~3年で転勤になりますが我々地元の人間としては彼等が赴任中に少しでも日本あるいは沖縄の歴史、文化等を知ってもらいたいという思いからいろいろ話すこともあります。逆に彼等からは英語を教わったりしてコミュニケーションを図っています。



Q6. 同じ様な職種に就こうと考えている方へのアドバイスは？

現在、憲兵隊には日本人従業員が様々な職種に就いています。ゲートガードや交通巡視員以外に、軍用犬担当、アニマルコントロール（野犬・野良猫・ハブ捕獲等の担当）、涉外担当、バス発行所、訓練担当、監査担当、捜査担当等があり、いずれにせよ、憲兵隊で求められるのは、体力はもちろん、協調性や使命感を持つこともチームワークを維持するために大切です。さらに一貫した意見と言動を取ることも求められますので、それを理解し行動することのできる人が向いていると思います。

F-22A 報道陣に公開

第18航空団広報局



(米空軍チャッド・ウォーレン等兵撮影)

アメリカ空軍の誇る最新鋭の主力戦闘機F-22Aラプターが1月30日県内外からの報道陣へ公開されました。およそ50人の報道陣を前に、第27戦闘中隊司令官ランシング・ピルチ中佐は、およそ3ヶ月に及ぶ部隊の嘉手納基地の訪問について「本地域での平和と安定のために米国の責務を象徴するものである」と説明し、部隊の任務や戦闘機の持つ機能、その訓練概要等について話しました。「他の部隊との合同訓練予定は」「航空自衛隊へのF-22の輸出はあるのか」など、多くの質問があり、関心の高さが伺えました。同中隊は、バージニア州にあるラングレー基地に所属し、今回はおよそ250人の整備員や支援要員らが同戦闘機12機とともに嘉手納基地へ到着、18航空団と訓練を行っています。(2009年1月30日現在)



(米空軍チャッド・ウォーレン等兵撮影)



(米空軍チャッド・ウォーレン等兵撮影)

MEET THE RAPTOR DAY



また同日ミート・ザ・ラプター・デー（ラプターに会いに行こう）も開催され、基地内で勤務または生活する人々を対象に航空機の展示が行われ、訪れた家族連れなどに同部隊のパイロットや整備員らが同機の紹介などを行いました。



(米空軍チャッド・ウォーレン等兵撮影)



(米空軍：金城順子撮影)



(米空軍：金城順子撮影)

